

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度	<p><b>アルタ・ベラパス県ラ・ティンタ市とチュクル市で女子にやさしい学習環境が整い、住民のジェンダー平等の意識が高まる。</b></p> <p>本事業は3年事業のうちの第1年次であり、ラ・ティンタ市にて活動を行った。</p> <p>女子にやさしい学習環境の整備については、同市の対象5校のうち、3校にて、衛生設備（5棟）の整備を行った。</p> <p>また、住民のジェンダー平等意識の向上に関しては、対象コミュニティの女の子、男の子、教師、保護者、コミュニティ・リーダーおよび市の行政官にジェンダートレーニングを実施した。結果として、それぞれのグループの参加者は、期待される成果にある「能力強化」の指標（後述）を達成し、ジェンダー平等について一定の理解が促進されたことが確認された。</p> <p>更に住民意識の高まりとして、各グループにてジェンダー平等、とくに女の子の就学の問題を改善するための活動計画が話し合われ、その中で、市の行政官のグループが「女の子を学校に行かせよう」とのキャンペーンを開始するなどの変化が見られた。</p>
(2) 事業内容	<p><b>1. コミュニティにおける能力強化</b></p> <p><b>1-1 ジェンダートレーニング（添付資料②トレーニング・リスト参照）</b></p> <p><b>1-1-1 女子クラブ</b></p> <p>第1年次対象5コミュニティから、11-15歳の女子（学校に通っている子および通っていない子）計189人（計画：175人）を選び、各コミュニティ計13回（計画：10回）のトレーニングおよび修了式を実施した。延べ2,278人、各回平均175人が受講した（2018年8月10日付変更報告書第4号参照）。</p> <p>175人の定員に対して参加希望者が多く、今後、トレーニング受講者が模範となって学校やコミュニティでジェンダー平等を促進していくことを鑑み、対応可能な範囲で受講者枠を広げた。また、3回の追加トレーニングは、10回のトレーニングで学んだジェンダー平等についての内容をより確実に定着させるために行った。</p> <p>なお、コミュニティの小学校で教師らと実施した修了式には、保護者、コミュニティ・リーダーらが招待された。自分たちが持つ「学ぶ権利」について、女の子の代表らが臆することなく発言する姿が確認された。</p> <p><b>1-1-2 保護者</b></p> <p>女子クラブのメンバーの保護者のほかに、男子対象のトレーニングに参加している男子メンバーの保護者のうち、娘もいる保護者に対し、各コミュニティで計6回（男女グループ別、計画4回）のトレーニングを実施（2018年6月12日付変更報告書第3号参照）。当初計画の4回のトレーニングには延べ1,050人、各回平均263人（計画：175人）が参加した。</p> <p>なお、2回の追加トレーニングは、活動を実施する過程で、ジェンダー平等に関する保護者の無理解を改善することが女の子の就学率を向上させる上で効果的との考えから実施した。全6回の平均参加者数は239人と若干減少したが、当初計画の175人を上回った。</p>

### 1-1-3 教師

教師を対象に6回のトレーニングを実施し、延べ216人（小学校併設の幼稚園教師らも参加）、各回平均36人（計画：35人）が参加した。教師たちは、トレーニングで学んだジェンダー平等をテーマに、自分の所属する学校で子どもたちに授業を行った。

トレーニングに当たっては、先ずジェンダー平等についてのマニュアルを本事業にて開発し、教育省（支部）の承認を受けた後、教師らに配布した。このマニュアルは、今後、同市にある本事業対象外の小学校（約45校）の教師たちのトレーニングに使われる予定である。

### 1-1-4 男子

対象5コミュニティから10-14歳の男子計140人（計画：125人）を対象に、各コミュニティ13回（計画：10回）のトレーニングを実施し、延べ1,647人、各回平均127人が参加した（2018年8月10日付変更報告書第4号参照）。

女子クラブ対象トレーニングと同様の理由で、対応可能な範囲で参加希望者を受け入れ、ジェンダー平等の内容について、より定着させるため3回の追加トレーニングおよび修了式を実施した。

### 1-1-5 コミュニティ・リーダー

コミュニティ・リーダーを対象に、各コミュニティ計5回（計画：3回）のトレーニングを実施し、延べ126人、各回平均25人（計画30人）、最多時は32人が参加した（2018年8月10日付変更報告書第4号参照）。当初はコミュニティ側も参加者を限定し、各コミュニティから代表者ら3人のみの参加であった。しかし、コミュニティの役員会には女性の役員もいることがわかり、彼女たちにも参加を呼び掛けた結果、3回目以降はほぼ定員数の参加があった。

リーダーが女の子の就学の機会などについてより理解を深め、女の子の権利を守るようコミュニティの人々に働きかけていける存在となることで、コミュニティ内のジェンダー平等に対する理解も広がることを期待できるため、2回の追加トレーニングを実施した。トレーニング終了後、各コミュニティではリーダーたちが女の子を一人でも多く学校に行かせるための活動計画を作成するなど、既にコミュニティ内での理解促進に向けて行動を起こしている。

### 1-1-6 地方行政官

1年目の対象地であるラ・ティンタ市の教育担当官、市行政官などを対象に4回（計画：3回）のジェンダー平等についてのトレーニングを実施し、延べ90人、各回平均23人（計画：15人）、最多時には32人が参加した（2018年8月10日付変更報告書第4号参照）。

参加者たちは、トレーニングで地域におけるジェンダーによる格差の問題点について理解を深め、「女の子を学校に行かせよう」とのキャンペーンを開始した。

### 1-3 学校改善計画の策定指導

教師を対象に、各コミュニティにて3回（計画：2回）、学校改善計画の策定トレーニングを行い、延べ110人、各回平均36人（計画：35人）、最多時は39人が参加した。その後、ラ・ティンタ市にて教育省の担当官を交え、各学校が作成した計画の内容を確認するためのワークショップを1回実施し、15人が参加した（追加分はコミュニティ訪

	<p>問のモニタリング時などに自主的に実施)。 改善計画には、ジェンダー平等をテーマにした小イベントの実施などが取り入れられた。</p> <p><b>3. 学習環境の改善</b></p> <p><b>3-1 対象校の衛生設備（トイレ・手洗い場・多目的洗い場）建設／修繕</b> ラ・ティンタ市の3校にて、合計5棟の衛生設備が整備された。</p> <p><b>3-2 維持管理トレーニング</b> 整備された設備が適切に使用、維持管理されるように、第1年次の衛生設備建設対象3校の全生徒と教師を対象に、各校にて1回、維持管理のトレーニングを実施した。</p> <p><b>4. その他</b></p> <p><b>4-2 事業関係者ワークショップ</b> 事業開始の2018年1月に、対象市のラ・ティンタ市長、現地教育担当官をはじめとする地方行政官、コミュニティ・リーダーらを対象に、事業開始時ワークショップを開催し、45人が参加した。参加者は本事業の目標、活動内容への理解を深め、活動への参加意欲を高めた。</p>																					
(3) 達成された成果	<p><b>1. コミュニティにおける能力強化</b></p> <p>本成果についてはおもに、参加者に占める修了者数とジェンダー平等についての理解度を指標として設定した。 参加者について、事業対象地では経済的な理由などから、サトウキビの収穫やそのほかの仕事のため、1年中いつでも、家族で移住するケースが見られる。この点を考慮し、事前に参加希望者をより多く受け入れることで指標である計画数が達成できるように努めた。</p> <p>1) 女子クラブのジェンダートレーニング受講者（以下「女子クラブ受講者」）の80%が10回のジェンダートレーニングを修了する：</p> <table border="1" data-bbox="597 1436 1344 1701"> <thead> <tr> <th colspan="2">受講者数</th> <th colspan="3">修了者（目標:80%）</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>実数 (登録分)</th> <th>対計画 (10回)</th> <th>対計画</th> <th>対実数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">175人</td> <td rowspan="3">189人</td> <td>175人</td> <td>100%</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>対実数 (13回)</td> <td>対計画</td> <td>対実数</td> </tr> <tr> <td>156人</td> <td>89%</td> <td>83%</td> </tr> </tbody> </table> <p>計画した10回のトレーニングおよび追加トレーニングを併せた全13回のいずれに対しても、目標の参加者数を上回り、対象コミュニティにて計画以上の女の子がジェンダー平等について興味を継続してトレーニングを終えたことが確認された。</p> <p>対計画（10回）、追加分も含めた対実数のいずれにおいても、当初目標（80%）を上回った。トレーニング修了者の中には、国連が定める国際ガールズデーのイベントに参加し、自分の学ぶ権利について話</p>	受講者数		修了者（目標:80%）			計画	実数 (登録分)	対計画 (10回)	対計画	対実数	175人	189人	175人	100%	93%	対実数 (13回)	対計画	対実数	156人	89%	83%
受講者数		修了者（目標:80%）																				
計画	実数 (登録分)	対計画 (10回)	対計画	対実数																		
175人	189人	175人	100%	93%																		
		対実数 (13回)	対計画	対実数																		
		156人	89%	83%																		

す子もいた。

2) 女子クラブ受講者の 80%がジェンダーについて理解し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる

トレーニング後テストで 84%の受講者が正答率 80%以上となり、参加した子どもたちの多くがジェンダー平等について理解したことを確認した。

3) 女子クラブ受講者の 80%が人生の目標を設定する

受講者の 83%がトレーニング終了後、自分の人生の目標を設定した。主な目標は「将来、先生になってコミュニティの子どもたちに教えたい」「警察官になって、コミュニティを住みやすくしたい」など。

4) 教師の 80%が全てのジェンダートレーニング (6 回) を修了し、学校におけるジェンダー平等の定義 3 点を把握する

受講者数		修了者 (目標:80%)		
計画	実数 (登録分)	対計画 (6 回)	対計画	対実数
35 人	42 人	28 人	80%	67%
		参考値: 初回除く 5 回	対計画	対実数
		32 人	91%	76%

対計画比で、教師の 80%が全 6 回のトレーニングを修了し、ジェンダー平等の定義 3 点 (人権、全ての人への尊重、平等) を把握した。

(注: トレーニング日が教師の全国ストと重なるなどがあり、デモに動員された教師がいたため、全 6 回の参加割合が下がった。そのため、参考値として初回を除く 5 回の受講者の指標も記載する。また対象教師の他にも不定期での他の教師の参加があった。一番多い時には 42 人の参加があった)。

6 回全部に参加できなかった教師らは、参加した教師から後日、受講内容の共有を受け、残りのトレーニング内容を含め、学校におけるジェンダー平等の定義 3 点を把握した (トレーニング後の簡易テストで確認)。

5) 男子の 80%が全てのトレーニング (10 回) を修了し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる

受講者数		修了者 (目標:80%)		
計画	実数 (登録分)	対計画 (10 回)	対計画	対実数
125 人	140 人	125 人	100%	89%
		対実数 (13 回)	対計画	対実数
		111 人	89%	79%

当初計画の全 10 回については 100% (125 人)、全 13 回 (3 回追加) については対実数で 79%がトレーニングを修了した。これらはいずれも

当初目標の 100 人を上回っている。また 80.5%の男の子がトレーニング後のテストで正答率 80%を記録した。

(注: 学校が休暇に入ってから追加実施した 11~13 回目は、家計を支えるため農園などに働きに行く子どももいたため参加者が減少し、対実数で目標を若干下回った)。

6) 保護者の 80%が全てのトレーニング (4 回) を修了し、女子クラブトレーニングへの参加をサポートする

受講者数		修了者数 (目標:80%)		
計画	実数 (登録分)	対計画 (4 回)	対計画	対実数
175 人	283 人	248 人	142%	88%
		対実数 (6 回)	対計画	対実数
		188 人	107%	66%

当初計画の全 4 回については、当初目標の 140 人に対して 142% (248 人)、全 6 回 (2 回追加) については 107% (188 人) がトレーニングを受けた。トレーニングに参加した参加者は読み書きが出来る人が少なく、特に母親はほぼ全員が読み書きができなかった。が、トレーニングを受けた後、教育の大切さを理解し、識字教室がコミュニティで開かれる様に手続きを行った。彼女たちを始め、多くの参加者が、プロジェクトの趣旨を理解し、子どもが女子クラブのトレーニングに参加することをサポートするようになった。

また参加者の中には、経済的な理由から子どもを近くの町に家事手伝いとして働きに行かせていたが、学校に復学させたなどの変化もあった。

7) 地方行政官の 80%が全てのトレーニング (3 回) を修了し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる

受講者数		修了者 (目標:80%)		
計画	実数 (登録分)	対計画 (3 回)	対計画	対実数*
15 人	32 人	17 人	113%	53%
		対実数 (4 回)	対計画	対実数*
		17 人	113%	53%

当初計画 (3 回)、追加を含めた 4 回のトレーニングについて、対計画で 113% (17 人) がトレーニングを修了した。また 90%の参加者がトレーニング後のテストで 80%以上の正答率を記録し、ジェンダーによる不平等について理解を深めた (\*注: 対実数に対する修了者の割合について: 4 回目の最多受講者数 32 人を基に算出したため、3 回および 4 回すべての修了者の、実数に対する割合が低くなっている。実数が増えたのは「女の子を学校へ」のキャンペーンが決まった最終回 (4 回目)、ラ・ティンタ市の市長らも参加したためである)。

	<p><b>3. 学習環境の改善</b></p> <p>1) 対象3校の衛生設備が建設される ⇒対象3校に衛生設備(5棟)が建設された。</p> <p>対象3校に通う女の子の80%が学校の衛生環境の改善を実感する ⇒聞き取りにより、対象3校に通う女の子の全員(100%)が学校の衛生環境が良くなったと感じたことを確認した。</p> <p>2) 対象3校の生徒の80%が衛生設備の維持管理方法を知っている ⇒衛生設備の各学校への引渡し後、学校への定期訪問を行い、対象3校すべてにおいて、全生徒(100%)が当番制で清掃に関わり、維持管理を行っていることを確認した。</p> <p>以上から、本事業で実施したトレーニングにより、対象地域におけるジェンダー平等に関する理解は事業開始時より高まった、と言える。 また、これまで制度化だけがなされ、現場では適切に策定されてこなかった学校改善計画が、本事業で実施したトレーニングを機に対象の小学校で策定されたり、ジェンダー平等に関する授業が実施されたりするなど、これまでよりも質の高い教育が実施されるきっかけとなった。 よって本事業は、持続可能な開発目標(SDGs)の目標4、「質の高い教育をみんなに」、目標5、「ジェンダー平等を実現しよう」に寄与したと考える。</p> <p>直接裨益者数：1,749人 (対象コミュニティにある小学校に通う全生徒を含む)</p> <p>間接裨益者数：42,966人(ラ・ティンタ市人口)</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業の終了後も、事業の効果が持続あるいは発展される様に、次の様に活動を実施した。</p> <p>1) 整備された衛生設備の維持管理： 引渡し時に学校に維持管理トレーニングを実施した。また、施設の維持管理費用については、主には学校が、また必要な場合には保護者の会とコミュニティ役員会とが話し合い、対応する旨を確認した。</p> <p>2) 開発した教師向けマニュアルの活用： この事業で開発したマニュアルは教育省の承認を受け、次年度には対象市(ラ・ティンタ市)の残りの全ての小学校の教師にもトレーニングが行われる予定である(教育省とプラン・インターナショナル・グアテマラが別の資金を用いて共同開催)。</p> <p>3) 学校でのジェンダー平等への理解： 本事業で策定した学校改善計画は第2年次、各校でそれぞれ実行に移される予定である。事業にてモニタリングと助言を行い、ジェンダー平等への理解の定着を図る。</p>

4) コミュニティ内でのジェンダー平等の促進について：

本事業でトレーニングを受けた保護者の中から、ジェンダー平等啓発員を選んだ（各コミュニティ・男女各3人）。彼らの役割はコミュニティ役員会と一緒に、女の子の通学促進などについてコミュニティで啓発を行うことである。本事業では第2、3年次も対象地域での活動を予定しており、この間に促進員らを通して、少しでも男女の就学機会の平等について理解が高まることが期待される。

また、トレーニングを受け教育の大切さを学んだ母親の中からは政府が行う識字教室の申し込みをする人も出てきた。この様な女性の意識の変化により、対象地域でジェンダー平等への理解が高まることが期待できる。

5) 市単位での「女の子を学校へ」キャンペーンの実施

担当市の行政官らの提案により、ポスターの設置、コミュニティでの集会（予防接種など）時に住民へ啓発の話をするなど、小規模なキャンペーンが開始された。あと2年間継続実施予定の本事業において、モニタリングと必要なサポートを行っていく。